

陣痛促進剤による

被害を考える会

設立30周年記念
シンポジウム

無痛分娩流行で陣痛促進剤の使用が増える中、安全は確保されているか

日時 **12/2(土)** 13:30~17:30 (開場13:10)

場所 **日比谷コンベンションホール**

東京都千代田区日比谷公園1-4 (旧都立日比谷図書館) Tel.03-3502-3340

東京メトロ「霞ヶ関駅」丸の内線・日比谷線 B2出口3分 / 千代田線 C4出口3分
都営地下鉄三田線「内幸町駅」A7出口3分 / JR新橋駅 日比谷口より徒歩10分



参加費 **1,000円/事前申込み不要** ■ 18時より懇親会を行います

後援 患者の視点で医療安全を考える連絡協議会 全国薬害被害者団体連絡協議会 薬害・医療被害をなくすための厚労省交渉団

安全なお産に
繋げるために

第一部 講演

出元明美 (当会代表) 基調報告「会30年の歩み」～多くの事例から学んでほしいこと～
迫田朋子 (ジャーナリスト) マスコミで初めて促進剤被害を取り上げた元NHK番組キャスターとして
貞友義典 (弁護士) 陣痛促進剤被害訴訟に数多く関わって
勝村久司 (当会世話人) 産科医療補償制度の再発防止委員会委員として

第二部 被害報告 司会 須加厚美 (弁護士)

- 1 帝切既往者なのに陣痛誘発を行い子宮破裂、子宮摘出し児は2歳で死亡
- 2 PGE2錠の被害 分娩監視装置の不使用、児は出生後にまもなく死亡
- 3 PGF2αの大量使用による子宮破裂で、子宮摘出
- 4 アトニン-Oの誘発分娩で脳出血を起こし、1ヶ月後母体死亡
- 5 無痛分娩で子宮破裂し子宮摘出、児は間もなく死亡

第三部 パネルディスカッション コーディネーター 廣田智子 (弁護士)

「陣痛促進剤使用の分娩事故状況は、この30年で何が変わり、変わっていないのか」

第一部講演者に加え **岡いくよ** (関西学院大学社会学研究科・助産師)

会場の皆さんと共に、事故の再発防止に向けてディスカッションします。フロアからは被害を受けた子供の兄弟姉妹の立場からの思いも発言していただく予定です。

総合司会 赤羽幸生 (当会世話人)



会HP↑

◆お問合せ 陣痛促進剤による被害を考える会 〒794-0825 愛媛県今治市郷六ヶ内町2-3-24 Tel.090-7126-4141